

平成29年度社会福祉法人ひらか福祉会事業報告

1. 社会福祉法人ひらか福祉会

平成30年1月に法人設立10周年記念式典及び祝賀会を開催した。法人の今までの歩みと共に職員みんなで喜びあう場を持てたことは非常に有意義なものであった。今後も地域に必要とされる福祉サービスについて職員一丸となって取り組んでいきたい。

運営においてはあやめ苑、かがり火の利用率向上に向けた施設長会議を中心とした事業間の連携及び情報共有により全体では前年度比107%の収入の向上、収支差額としては経費削減にも力を入れたお陰で278%もの数字を記録することができた。また、来年度開設予定の企業内保育所かがり火キッズやリハビリデイサービス及び放課後等デイサービスの開設に向けて準備に懸命に取り組んだ。

2. 特別養護老人ホームあやめ苑・ショートステイあやめ苑

「まずやってみよう！」を統一目標に、地域との接点を持つこと、職員の学びの場と魅力ある職場作り、数字への意識付けなどを重点目標に取り組んできた。

地域との接点を持ち情報共有するために、地元町内会長へいきいきサロン等への取次ぎを依頼するなどのアプローチをしたが、積極的に集客する企画や地域行事への参加に踏み切れなかった。しかし、町内会長と意見交換することで、高齢化地域での生活について潜在的に不安を抱えている方が多いことを再認識し、横手市の高齢者の住まいを切り口とした地域との連携事業への取り組みをキッカケに来年度の取り組み課題が明確になった。

プロとしての意識を高めるため年間研修計画を組み、個々のキャリアに合わせ積極的に研修へ参加促進したことで「仕事への意識高揚」という点では一定の成果があったと感じるが、具体的な行動には結び付けられなかった。他方、人事考課制度も評価を賃金へ反映させる仕組みができ、がんばりが評価につながることで職員のモチベーションにつながっている。数字についても無駄な経費削減には日常的に取り組む、「稼働率と収入の関係」について現場職員の意識が強くなった。

平成30年1月には法人の10周年記念祝賀会を開催し、法人職員全員で喜びを分かち合えた。このモチベーションを絶やさずに法人の魅力を増やししながら、新年度目標に取り組んでいきたい。

【稼働率目標と実績】

- ・特別養護老人ホームあやめ苑（29床） 目標）95.00％／実績）94.82％
退所や入院による空床期間の適切な短縮化ができず、併設ショートステイの空床利用も実施したが、新規入所まで時間を要してしまった。
- ・ショートステイあやめ苑（14床） 目標）95.00％／実績）91.74％
年度中盤に長期利用者の入院や定期利用者の逝去による空床の穴埋めができなかった。終盤は特養の空床利用も含め積み上げできた。

3. ショートステイかがり火

法人目標の「まずやってよう！」を合言葉に、年間を通して自分達ができる事をやってみた結果、利用者の満足につながり、目標としていた稼働率をはるかに上回る年間稼働率を達成する事が出来た。また利用者が多くなることにより、他職種との連携を取る事の重要性の認識や報連相の向上が見られ、個々のスキルアップにつながった。しかし一方では、利用者の忘れ物や同じような事故報告が繰り返されており、各マニュアルの見直しが必要であると各委員会より年度反省があり、来年度の課題となった。

また、ショートステイと一体運営となる企業主導型保育園の開設をすること出来た。

稼働率目標と実績（定員 30名）

目標 年間稼働率 90% （1日平均 27人）
実績 年間稼働率 93.62%（1日平均 28.1人）

4. ケアプランセンターかがり火

羽後町で居宅介護支援を開始し5年が経とうとしており、地域に密着した居宅介護支援事業所となって来た事を感じる事が多くなってきている。法人目標である「まずやってみよう！」を実行する為に、今まではあまり受けた事のない医療重度の利用者や単独独居の利用者の引き受けを積極的に行ってきた事も有り、契約利用者数は今年度も増加している。

また、主任ケアマネ研修会に職員を出す事が出来、包括支援センター以外では初の主任介護支援専門員取得となった。今後も気軽に立ち寄り相談しやすい事業所を目指すと共に、関係機関や地域との連携・連絡体制を強化して行きたい。